

景年記念館 展示目録

作品名		制作年	書体
古にありし聖は青山を越えゆく弥陀にすがりましけり		昭和五十一年	時調体
とかくご覧よ浮世は鏡 笑い顔すりや笑い顔		昭和六十三年	時調体
観自在 心経日 観自在菩薩行般若波羅蜜多時 照見五蘊皆空度一切苦厄		昭和六十三年	飛白体
心愛に満つる時花咲く天を賛美す、喜びの使来 らずということなし		昭和五十五年	時調体
巖かに高嶺の夜は明けゆく綾なす雲をつき、真 紅の太陽はのぼり来る。雲の海に群らたてる峰 にたてり見よ。陽はのぼりきて、天地今動き初 む。 <small>(モルゲンロートの詩)</small>		昭和五十五年	時調体
時は春日はあした朝は七時片岡に露満ちて揚雲 雀なのりで 蝸牛枝に這い神空にしろしめす 総て世はこともなし		昭和四十八年	時調体
問是寶		昭和五十四年	楷書
桃花雖珍不耐寒 豈如柑橘遇霜美		昭和六十二年	草書
蓬萊山には千とせふる万歳千秋重なれり松が枝 には鶴巢くい巖の上に亀遊ぶ		昭和四十二年	仮名
山を看る画を看るが如く、水を聴く琴を聴くが 如し、水流れて碧溪転じ、山高うして白雲深 し、俯仰天地の間万物本無心、松風颯然として 来り我をして煩襟を滌わしむ		昭和六十年	行書 草書
日を弄して溪に臨んで座し 花を尋ねて寺を 繞つて行く 時々鳥語を聞き 處々に泉聲		昭和四十五年	行書
蘆菴児を生み 菜に孫有り 露芽雨甲盤餐に媚 ぶ 自ら知る肉食は吾相に非らず 抱甕何ぞ辞 せん 日々に園に灌ぐことを		昭和四十六年	行書
空つぽの袋は風で膨らみ 空つぽの頭は己惚れ で膨らむ		平成三年	時調体
天と地と団子にまるめて手にのせて グツとの めども咽喉に障らず		昭和六十三年	時調体
東西南北有無通じ春夏秋冬総て相和す		昭和四十五年	篆書
手にて掬む聰明の泉一滴大海の味あり 桑芋の 翁に逢わざるも知るもの希ならば我は方に貴し		昭和四十五年	行書